古典詩歌の分析法

・古典詩歌も「詩」として読むことが重要。近現代詩と異なり、古典詩歌には決まった形式がある（古典詩歌は、基本的に「文語定型詩」）。また、定まった技法もある。それらを前提として、分析法を考える必要がある。

・**〈詩の分析法〉**を、古典詩歌の特徴に合わせて、小松が修正した。

１．どのような形式か（定型／長歌、短歌、旋頭歌、和讃、今様など、または非定型）。
２．文の切れ目や、１首・１句の構成方法（序詞（じょことば）と本旨など）。
３．文法的に完全な文（語りや流れの陳述）か。断片的な語句・躊躇などの不完全な発話か。
４．語順は通常か、倒置があるか。効果をねらった語順になっているか。
５．〈われ〉の位置（主語が明示されているかどうか。〈われ〉と状況や情景はどのような関係にあるか）。〈われ〉の性別は何か（男性、女性、どちらでも可／ない）。
６．空間的形象か、時間的形象か、またはその組み合わせか。また、１首・１句の中で時間（時間軸、時間の流れ）はどのようになっているか。
７．どのような助動詞が用いられているか（テンス〈時制：過去、未来〉、アスペクト〈動作の様態：完了、継続、結果の残存〉、ムード（モダリティとも。話者の心的態度：推量、意志、仮想、希望、命令、禁止など）。
８．動きがあるか（それは動的な形象か、停滞的形象か）、動きを排除しているか。〔動詞の観察〕
９．自然物を表現しているか、心情表現のみか。
１０．暗喩と直喩を使用しているか、使用していないか。換喩を使用しているか、使用していないか。提喩を使用しているか、使用していないか。比喩の「形式」」は何か（枕詞、序詞、掛詞、縁語など）。

※**暗喩・直喩**：二つの事物の〈類似性〉によって、一方を他方で表す。

暗喩（隠喩、メタファー metaphor）：「～のようだ」、like, as などを使わない。
例）「晴れ晴れとした顔」「ガラスの心」

直喩（シミリ―simile）：「～のようだ」、like, as などを使う。
例）「太陽なような笑顔」「ガラスのような心」

※**換喩**（メトニミー metonymy）：二つの事物の〈隣接性〉〈関連性〉によって、一方を他方で表す。目に付きやすいもので、その事物を表す。
例）鳥居（＝神社）、「日本酒を１瓶飲んだ」（１瓶＝１瓶分の内容量）

※**提喩**（シネクドキー synecdoche）：より一般的意味の語（上位概念）で、具体的な事物（下位概念）を表す。逆に特殊な意味の語（下位概念）で、一般的な事物（上位概念）を表す。

例）「花」（＝桜）（「花見に行く」）、「人はパンのみに生くるにあらず」（パン＝食べ物）

１１．擬人化が行われているか、行われていないか。

１２．対話が存在しているか、存在していないか（対話的か、独語的か、そのどちらでもないか）。

１３．色彩があるか、ないか。色彩がある場合は、明か暗か。また、モノクロかカラーか。

１４．水平的形象か、垂直的形象か、またはその組み合わせか。

１５．特殊な単語がつかわれているか、使われていないか。

１６．結語のない歌・句か、完了した歌・句か。

１７．どのような音楽性があるか（五七調か、七五調か、八五調かなども）。

補足：「序詞」について

・心情を形象化するための、自然表現。特定の語句（わたりことば）を引き出すために、その前に置かれる。枕詞が５音句であるのに対して、音数に制限がない。

《例》『百人一首』の柿本人麿の歌

自　然　表　現

あしびきの　山鳥（やまどり）の尾の　しだり尾の』長々し夜（よ）を　ひとりかも寝（ね）む

心　情　表　現

〔（訳）（あしびきの）山鳥〈キジ科のヤマドリ〉の尾の、その長く垂れ下がった尾のように、長い長い秋の夜をひとりで寝るのだろうか。〕

・序詞は、日本の古典和歌（さらに謡曲などの文章）の重要な表現形式。その起源は歌謡の掛け合い。その場にある自然物を即興的に取り上げ、恋の表現に転換した。

《参考》スマトラの四行詩の民謡パントゥン

（男）甘いみかんは沢辺に生えて

ちょいと布でもかけられる　（即興的な自然表現）

（女）甘い口だけ私にかけて

真の心は他にむける　（男の歌を受けた心情表現）

［土橋寛「万葉集の序詞」『萬葉集講座』第三巻、有精堂、1973］

『萬葉集』を読むために

・古典詩歌を読むためには、古典語についての知識が必要となる。そのために、古典詩歌の分析にあたっては、古典語の辞書、古典詩歌の注釈書を参考にする（ただし、辞書や注釈書の情報を集めるだけでは、古典詩歌を読んだことにはならない）。

・『萬葉集』は、漢字で書かれているため、研究者によってその読み下し方が異なる場合もある。読み下し方を確認するためにも注釈書を参考にする（最低限のもののみ。実際にはさらに多くの注釈書を見る必要あり）。

『時代別国語大辞典 上代編』三省堂、1983
『岩波古語辞典（補訂版）』岩波書店、1990（＊語源の説明が参考になる）
『日本国語大辞典（第二版）』小学館、2002（＊JapanKnowledge で利用できる）

『萬葉集』①～④、新編日本古典文学全集、小学館、1994～1996（＊同上）
『萬葉集』一～四、新日本古典文学大系、岩波書店、1999～2003（＊Maruzen eBook Library で利用できる）

稲岡耕二『萬葉集』㈠～㈣、和歌文学大系、明治書院、1995～2015
伊藤博『萬葉集釈注』集英社、1995～2000
阿蘇瑞枝『萬葉集全歌講義』笠間書院、2006～2015
多田一臣『萬葉集全解』１～７、筑摩書房、2009～2010

★武田祐吉『増訂萬葉集全註釈』角川書店、1956～1957（＊重要なヒントを得られる）
★澤瀉久孝『萬葉集注釈』中央公論社、1957～1977（＊最後の拠りどころ）
☆『萬葉集』CD-ROM（＊検索のために）

（2020 年６月　小松靖彦作成。2021 年４月修正。2021 年 12 月修正）